

令和元年6月6日現在

機関番号：32620

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2018

課題番号：16K15935

研究課題名（和文）不妊治療後の妊産婦への助産ケア評価尺度の開発

研究課題名（英文）Development of a scale to assess midwifery care for pregnant and parturient women who underwent fertility treatment

研究代表者

青柳 優子（AOYAGI, YUKO）

順天堂大学・医療看護学部・准教授

研究者番号：40289872

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：不妊治療後の妊産婦への個別ニーズに応じた助産ケア評価尺度の開発を目的とした。不妊症看護認定看護師有資格助産師へのインタビュー結果および先行文献を検討し、助産師の倫理的実践質問紙を作成した。本尺度を用いて助産師の実践と関連要因を探索する質問紙調査を行った。最も関連が強い要因は助産師の倫理的感受性であることが示唆された。日々の実践における具体的な助産ケア指標の作成と倫理的側面を重視した助産師への教育が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の尺度開発は、不妊治療後の妊産婦に対してどのような助産ケア内容や方法が倫理的なのかに注目して行った。つまり、妊娠から産後に亘るニーズに応じたケアを明らかにしており、助産師が倫理的ケアを理解するために有効といえる。

また、助産師への調査の結果から示唆された倫理的感受性などの関連要因を考慮することで、不妊治療後の妊産婦への倫理的実践を課題とする助産師を対象とした教育プログラムの検討や実施に役立てることができる。

研究成果の概要（英文）：The aim of the present study was to develop a scale to assess midwifery care in accordance with the individual needs of pregnant and parturient women who underwent fertility treatment. A questionnaire on the ethical practices of midwives was created based on interviews with midwives who are certified in infertility nursing and a review of the literature. This scale was then used to survey midwives caring for pregnant and parturient women who underwent fertility treatment in order to examine the practices of midwives and related factors. The results suggested that the factor most closely related to practices was a midwife's ethical sensitivity. Specific indicators of midwifery care in routine practice need to be devised, and midwives need training that emphasizes ethical considerations.

研究分野：助産学

キーワード：不妊治療後妊産婦 助産師 助産ケア 倫理的感受性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 不妊治療が当事者の心理面に及ぼす影響は、不妊治療の種類や治療機関の長短、社会的背景の違い、当事者のパーソナリティとの関連があり(森, 2007) 個別性が高い。治療が長くなるほど妊娠後にも不安を抱き、母親役割への適応に課題をもつ(Bernstein, 1994; 大谷, 2009; 前原, 2012) こと、産後うつ病との関連も指摘されている。これらの背景により不妊治療後の妊産婦は、健やか親子 21 の母子保健課題である「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」を必要としている。

(2) 助産師は第三者の関わる不妊治療の許容度が低い点で不妊の当事者との相違があり(青柳, 2010) 価値の対立に関連した倫理的問題が起こりやすい。よって、倫理的な視点をもったケアが特に必要である。以上により不妊治療後の妊産婦が必要とするケアは、個別ニーズへの対応と同時に、倫理的側面に配慮した対象者に寄り添う支援である。

これまでの看護ケアは、特別なニーズを有するとしながら、自然妊娠の女性と同様のケアを行っている(我部山, 2010) こと、約 20% の助産師は不妊治療後であることを全く意識していない(青柳, 2013) こと、知識不足でケアに支障がある(青柳, 2013) などの問題がある。不妊治療後の妊産婦に関する国際的なカウンセリングガイドライン(Covington & Burns, 2006) があるが、助産ケアの指標は明らかにされておらず、助産師のケア能力向上は重要な課題である。

2. 研究の目的

不妊治療後の妊産婦の個別ニーズに応じた助産ケアを評価するための尺度開発を目的とする。必要とされる助産ケア内容に倫理的視点を加味したものである。

3. 研究の方法

(1) 質問紙の作成

不妊症看護認定看護師資格を有する助産師の実践活動から、不妊治療後の妊産婦への倫理的実践の内容を明らかにすることを目的として、対象者 9 名に半構造化インタビューを実施した。倫理的実践とは、ケア対象者の人間としての尊厳を守ることが本質とし、必要なケアを見出し行うこととした。インタビューデータから逐語録を作成し、不妊に特化した倫理的な助産実践内容部分を抽出した。各実践の内容と方法について抽象度を上げながらコード化、カテゴリー化を行った。

の研究結果および当事者のケアニーズに関する先行研究を検討し、不妊治療後の妊産婦への周産期全体に共通する助産ケアと各期の助産ケアをリストアップした。自然妊娠の妊産婦へも実施するケア内容を削除し、不妊に特化した内容に絞り込んで下位項目とし日常ケア質問紙を作成した。

さらに、倫理的問題につながりやすい場面を状況設定し質問項目を設定した、事例への対応質問紙を作成した。特有の事例を取り上げてより客観的な回答を得るため、考えではなく行動を問う質問とした。

以上 2 種類を倫理的実践質問紙とした。

(2) 質問紙調査

(1) で作成した 2 種類の質問紙を用いて、助産師の倫理的実践と関連する要因を明らかにするための質問紙調査を実施した。研究デザインは関連探索研究であり、関連要因として「不妊治療に関する知識」「倫理的感受性」「助産師の背景と勤務施設の体制」を設定した。「倫理的感受性」の定義は、研究代表者の先行研究である概念分析を基にした。対象は、全国の分娩を取り扱う病院に勤務し臨床経験 1 年以上の助産師である。施設の看護管理者に研究協力依頼書、助産師用説明書、質問紙を送付し協力が得られた施設担当者に、助産師用質問紙と返信用封筒を郵送し個別返送を依頼した。質問紙の信頼性、妥当性を確認するため因子分析、テスト再テスト法を実施した。

データ分析方法は、各概念の記述統計を算出し、倫理的実践と要因との関連を見るため t 検定、² 分析、分散分析、相関分析、共分散構造分析を行った。質問紙の自由記載欄の回答は、質的に内容分析を行った。

(3) 当事者への意見聴取

(1) の質問紙作成過程でリストアップした、不妊治療後の妊産婦への倫理的な助産日常ケアについて、当事者の視点を反映させるための意見聴取を行った。対象は不妊治療後に妊娠出産を経験した母親 4 名とし、個別面談を行った。

4. 研究成果

(1) 不妊治療後妊産婦への倫理的実践の明確化

尺度開発の過程では、不妊症看護の専門家である認定看護師の資格を持つ助産師が実践している内容を抽出した。これにより不妊治療後の妊産婦のニーズをどのようにとらえ、個別のケアをし、倫理的問題に対応するのか、といった実践の実際を明らかにした。

対象助産師の実践内容について不妊治療段階別に分類できる特徴はみられなかった。治療方

法に関わらず、不妊治療が周産期へ及ぼす影響は個人によって様々であり、ニーズが異なると捉えていた。また、不妊治療を経験したすべての妊産婦が、必ずしも特別なケアを必要としているわけではないと全員が述べていた。但し複数回のARTの経験は、妊娠後の心理への影響を及ぼしている場合が比較的多いとしていた。

以下に、実践内容の分析により得られたカテゴリー（【】で括弧）を示す。

ケアの前提

【知識を持つ】

周産期全体に共通したケア

【信頼関係をベースにする】【不妊治療から産後までを継続的にとらえる】【不妊に関連した情報を収集する】【個人をとらえる】【対象の気持ちを聴く】【臨機応変に対応する】【対象者自身の選択を支える】

各時期におけるニーズに応じたケア

妊娠期：【不妊治療の経験を考慮して妊娠への取り組みを継続的に支える】【出産育児準備への取り組みを個人に合わせてサポートする】

分娩期：【産婦なりの分娩経過を支える】

出産後：【これまでとこれからをつなげる作業を手伝う】

その他として、特別なニーズを持った妊産婦事例とその対応、実践の取り組みを妨げる困難についての語りがあった。不妊に関わるケアの難しさでは、生命倫理における価値の対立、慎重に関わろうとすることによる躊躇などが含まれた。

また、語りの内容から倫理的実践に関連する要因として、不妊治療に関する知識の程度、ケースカンファレンスの実施や研修などの教育環境、勤務施設の診療形態や管理体制が影響することが示唆された。

これらの結果から倫理的な助産ケアをリストアップし、不妊に特化した実践に絞った質問紙（倫理的実践質問紙）を作成したことにより、不妊治療後の妊産婦への倫理的実践の日常ケア及び特有の事例に関するケア指標案を示すことが可能となった。

（2）不妊治療後妊産婦への助産師の倫理的実践に関連する要因

作成した倫理的実践質問紙を測定尺度とし助産師の実践との関連を調査した結果、以下のことが示唆された。

不妊治療後の妊産婦に対する倫理的実践に最も関連が強いのは、助産師の「倫理的感受性」であった。さらに「倫理的感受性」の高低と「事例共有カンファレンス」の有無は、倫理的実践との関連がみられた。つまり、倫理的感受性の高さによって基本的な倫理的実践頻度が規定される可能性があり、事例検討は倫理的感受性が低い助産師の倫理的実践頻度を高めることに役立つと示唆された。

その他、知識の獲得、様々な価値観と出会い視野を広げる機会が、対象理解や倫理的実践の促進に繋がると考えられた。

助産師の日々の実践を倫理的側面から検討した研究は、国内外において見られず貴重な結果といえる。また、全国調査であることから助産師の全般的な現状および関連要因の傾向をとらえることができた。本調査結果は新たな知見である。

倫理的実践質問紙の尺度としての信頼性妥当性

作成段階でプレテストを行い内容妥当性、表面妥当性を検討した。テスト再テスト法を行い再現性を確認した。「日常ケア質問紙」は因子分析を行い概念枠組みの確認、信頼性係数の算出を行った。以上の結果から、倫理的実践質問紙の「日常ケア質問紙」と「事例への対応」の4事例には、一定の信頼性妥当性を認めた。

本尺度の限界として、個別性の高い対応や倫理的実践の説明しにくさにより、倫理的実践を具体的に表しきれない困難さがあった。対象の状況による個別の対応が多くなるため、尺度の下位項目の相応しい表現についてはさらに検討を要するが、ケアの性質上やむを得ない部分でもあると考える。また、各助産師が勤務施設の診療形態や管理体制の中で、いかに実践するかをその都度考える必要がある。本尺度内容を実践に活用するには、より具体的なケア指標を作成することが有効と考える。

自由記載欄の記述

不妊治療後の妊産婦に対する倫理的実践についての助産師の自由記載内容を質的に分析した結果、「不妊治療に関する価値観の相違」「不妊治療の経験を関連づけないケア」の他、課題や実践への意見が抽出された。前者は倫理的問題に繋がる可能性があり、後者は個別のニーズをとらえられない可能性が考えられた。不妊治療後の妊産婦に対する助産師の実践上の課題と教育の必要性が示唆された。

（3）当事者の意見

不妊治療後妊産婦を対象とした妊娠から産後までの倫理的な助産日常ケアをリストアップしたもののについて、当事者から得られた意見は以下に要約された。

対象者らが特に重要視していた内容は、「不妊治療から出産後までの移行プロセスの継続的なサポート」「妊娠中の不安への対応」「通常のケアにおける細やかでさりげない配慮」「当事者の選択を肯定すること」「不妊治療の経過に関する理解と共有」であった。提示した倫理的な助産日常ケアリストに対して概ね同意が得られたことで、ケアの方向性はニーズと一致していることが改めて確認できた。その中で女性たちが重要視していた内容は助産師が注目すべきケアといえ、ケア指標の内容をより絞り込み具体的に検討するヒントが得られたといえる。不妊治療経験を振り返ることに対しては、要、不要および実施時期への様々な意見があり、個別対応において検討する必要性が考えられた。今後はこれらの意見を加味して、具体的で実践可能な倫理実践のケア指標を作成する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

青柳 優子、不妊治療後妊産婦への助産師の倫理実践 - 不妊症看護認定看護師有資格者に焦点をあてて -、日本生殖看護学会誌、査読有、14巻、2017 31-40

青柳 優子、医療従事者の倫理的感受性の概念分析、日本看護科学学会誌、査読有、36巻、2016 27-33 DOI:10.5630/jans.36.27

〔学会発表〕(計2件)

青柳 優子、森 明子、不妊治療後の妊産婦に対する助産師の倫理実践と関連要因、第33回日本助産学会学術集会、2019

青柳 優子、不妊治療を経験した妊産婦への助産師の倫理実践 - 不妊症看護認定看護師有資格者へのインタビューから -、第14回日本生殖看護学会学術集会、2016

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）:

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。